

令和2年司法試験 合格体験記

2019年度修了（未修コース）近藤 泰平

14期未修の近藤泰平です。平成29年に入学、令和2年に卒業し、令和2年度司法試験に合格することができました。

合格という結果を出すことができたのは、これまで応援してくれてきた家族や友人、切磋琢磨した友人、ご指導していただいた先生方のおかげにほかなりません。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

以下、今後、司法試験を受験される方々に向けて、私が合格のために特に重要であると考ええることについて僭越ながら述べさせていただきます。

一点目は、常に目的を意識することです。法科大学院に入学されている方の多くは、司法試験に合格すること（＝合格最低点以上をとること）が日々の勉強の目的であると思います。この目的との関係で、何をやる必要があるのか、なぜやる必要があるのか、どの程度の精度でやる必要があるのか、いつまでにやる必要があるのかを考えて、計画と実行をしましょう。この計画と実行をするためには、本番で何が問われているのか（出題範囲と能力）、どういう問われ方をしているのか、何をどの程度書けば合格水準に達するのか、今の自分の水準と合格水準はどのくらい差があるのかを知っておく必要があります。そのためには、過去問を本番と同じ条件で解き、出題趣旨・採点実感を讀んだり、合格答案と比較したり、合格者に添削してもらったりする必要があります。

現在、受験生フレンドリーな基本書や演習書、予備校教材が溢れています。また、ネット・SNSにも司法試験に関連する情報が溢れています。これらの本や情報に振り回されず、司法試験に合格するという目的との関係で取捨選択し、合格に真っ直ぐ突き進んでいってください。

二点目は、切磋琢磨する仲間が存在です。司法試験合格までの期間の長短はありますが、勉強を始めてから合格するまでの道のりは、長く、一足飛びにはいきません。毎日、コツコツ継続的に勉強する必要があります。この長い道のりを共に歩む仲間がいるのといないのでは、精神的な辛さが大きく変わってきます。

ぜひ、切磋琢磨できる仲間をつくり、司法試験と一緒に乗り越えていってください。